

● 日本のばら

ナニワイバラの苗を配布した街作りプロジェクト。個人育成家 1000 名、寄贈施設も 30 を超え、ナニワイバラが開花する 4 月中旬から 5 月中旬、地元佐倉市や八千代市の至る所で真っ白に咲くバラを見ることが出来るようになりました。貝殻亭リゾートはこの心温まる街作りプロジェクトをより多くの方々に伝えていこうと日本のばら 15 種類の配布を予定してプロジェクトを進めて参ります。引き続き多くの方々の協力を頂きつつ、準備が整い次第 HP で発表して参ります。どうぞ楽しみにお待ちください。



● ノイバラ

R. multiflora Thunb. var. *multiflora*

多花性のこのバラの性質を取り入れて、フロリバンダが作られました。日本の野山でごく普通。甘くよい香りの白い小輪花が、円錐花序となって5月に咲く。多花性のモダン・ローズ、ポリアンサ系、フロリバンダ系品種の祖先となった。園芸品種の台木として用いられる。果実は「営実」と呼ばれる漢方薬。



● ツクシイバラ (=ツクシサクラバラ)

R. multiflora Thunb. var. *adenochaeta* (Koidz.) Ohwi ex H. Ohba

九州地方の大きな川の岸に咲く、鮮やかなピンク色の野生バラ。ノイバラの変種。川原など、明るく湿った場所を好む。淡紅色の花が大きな円錐花序となって5月に咲き、まれに白色花もある。花柄などに赤味を帯びた腺毛が多く、べたつく。ノイバラ同様、園芸品種の台木として用いられる。



● ヤマイバラ

R. sambucina Koidz.

日本の野生バラの中では、つるの長さも葉も最大です。山地や海岸の林縁に自生する。日本のノイバラの仲間では、つるの長さも葉も最大。若いシュートは勢よく伸び、かぎ形の強い刺でまわりの木々からみつく。香りよく大きな白色花が、散房花序となって5~6月に咲く。



● ミヤコイバラ

R. paniculigera (Makino ex. Koidz.) Momiy.

京都周辺に多いので「ミヤコ」イバラと名づけられました。丘陵地の、比較的乾いたところを好む。白色小輪花が大きな円錐花序となって、5月、ノイバラより少しあとに咲く。葉柄、花柄だけでなく、枝にも腺毛がある。果実はよくみると扁球形になる。



● ヤブイバラ (=ニオイイバラ)

R. onoei Makino. var. *onoei*

日本の野生バラの中では、花も葉も最小です。海岸線から丘陵地まで、崖地や林縁に多い。白色小輪花が数花ずつ集まって5月に咲く。葉軸と葉裏の主脈に伏毛があり、花柄には腺毛と伏毛が混在する。枝は長く伸びるが、花と葉は日本の野生バラの中で最も小さい。アズマイバラ、モリイバラの母種。



● アズマイバラ

(=オオフジイバラ、ヤマテリハノイバラ)

R. onoei Makino var. *oligantha* (Franch. et Sav.) H. Ohba (= *R. luciae* Franch. et Roehbr.)

関東地方に多いので「アズマ」イバラと名づけられました。関東南部を中心に分布し、丘陵地の崖や林縁に垂れ下がるが多い。比較的暗いところでも生育できる。葉は硬く、表面に少し光沢がある。葉軸、花柄など全体に無毛。白色小輪花が短い円錐花序となって5月に咲く。



● モリイバラ

R. onoei Makino var. *hakonensis* (Franch. et Sav.) H. Ohba (= *R. jasminoides* Koidz.)

うす暗い森の中で、ひっそりと咲く白い野生バラ。山地の林床、林縁に多く、比較的暗いところでも生育できる、主にクリ帯に分布する。花期が早く、白色小輪花が5月上旬に咲く。ふつう1花ずつだが、環境がよいと5花以上の花序をなす。花柄は腺毛が多い。



● カラフトイバラ (=ヤマハマナス)

R. davurica Pall. var. *alpestris* (Nakai) Kitag. (= *R. marretii* H. Lev.)

北海道に多いバラですが、ハマナスとは違って海から遠い所に分布します。北海道の内陸の草原や林縁に自生する。遠く離れて信州にも分布。枝は紅色を帯びる。花はハマナスに似るがやや小さく、1花序の花数は多い。さわやかな芳香があり、赤みを帯びた苞葉が目立つ。果実は球形で径1~1.5cm。



● フジイバラ

R. fujisanensis (Makino) Makino

富士山周辺の山地に多い野生バラ。尾根筋など明るい場所を好みます。富士山とその周辺の山に多いが、西は四国まで点々と分布する。ブナ帯の尾根筋などを好む。幹は太く直立し、枝は密な分枝が特徴。葉は表面に光沢がある。少し大きめの白色花が短い円錐花序となって、6月に咲く。



● サンショウバラ

R. hirtula (Regel) Nakai

富士箱根地域の山地だけに分布。葉が「山椒」に似ています。バラではたいへん珍しい小高木で、樹高は5mにもなる。富士箱根地域の山地に分布。葉がサンショウに似る。花は花柄が短く、淡桃色で径約6cmと大きい。果実の表面はクリのイガのような刺に覆われる。



● ハマナス (=ハマナシ)

R. rugosa Thunb.

北国の海岸をいどころ香り高いバラ。耐寒性にすぐれています。海岸に自生。紫紅色の花は芳香強く、5~8月に開花する。果実は大きく扁球形。花卉や果実を煮てジャムにする。かつては樹皮や根から染料をとり、秋田八丈織が作られていた。18世紀末にヨーロッパに運ばれ、耐寒性の強いハイブリッド・ルゴサ系品種が多く作られた。



● カカヤンバラ (=ヤエヤマノイバラ)

R. bracteata J.C. Wendl.

「カカヤン」はフィリピン北部の地名。江戸末期に漂流者がタネを持ち帰りました。日本では八重山列島だけに見られるが、中国南部や台湾にも分布する。つる性で常緑。春から秋まで、花径6cm程の大きな白色花を咲かせる。花の萼筒の下につく苞葉(bract)が特徴で、園芸品種「マーメイド」の片親。



● オオタカネバラ

(=オオタカネイバラ)

R. acicularis Lindl.

北半球の高緯度地域に広く自生。寒冷地を好み、夏の暑さは苦手です。本州では高山や風穴など涼やかな場所に自生するが、北海道では海岸近くでも見られる。タカネバラより小葉数が1対少なく、5~7枚。紫紅色の花は枝先に通常1つだけつき、長い花柄と細長い萼片が特徴。果実は紡錘形。



● タカネバラ (=タカネイバラ)

R. nipponensis Crep.

夏山で登山者を喜ばせる高嶺のバラ。日本固有種です。高山の岩礫地に多く自生する。オオタカネバラより小葉数が1対多く、7~9枚。紫紅色の花は枝先に通常1つだけつき、長い花柄と細長い萼片が特徴。果実は紡錘形。葉、花、実とも、オオタカネバラよりひと回り小さい。



● テリハノイバラ

R. luciae Roehbr. et Franch. ex Crep. (= *R. wichuraiana* Crep.)

枝が長くのびるこのバラの性質を取り入れて、つるバラが作られました。海岸、川原、山地に自生する。葉は厚みがあり、表面に光沢がある。ノイバラより少し大きい白色花が、短い円錐花序となって、6月に咲く。枝は稲妻状に長く伸び、この性質を生かしてランブラー系のバラが作られた。